



「熱中症に気をつけてください」と笑顔で住民と接する吉田さん

吉田梨音さんが役場の仕事を体験 人吉高校生インターンシップ

人吉高校2年生の吉田梨音さん(野中田1)が8月2、3日に湯前町役場で職場体験を行い、働くことのやりがいを学びました。

吉田さんは「進路を考える中で、公務員にも興味があった。どんな仕事をしているか見てみたかった」と役場で体験することを決意。保健福祉課で働き、住民が各公民分館で取り組んでいる「いきいきクラブ」や、健康相談のお手伝い、離乳食教室の準備や片付けなどに汗を流しました。

吉田さんは「高齢者から小さな子どもまで、普段かかわりのなかった人たちとも交流できた。赤ちゃんのことなど専門的なことを学べた。今までに感じたことのない、仕事ならではの緊張感も感じた」と話していました。

笑顔で利用者と交流 湯前中ワークキャンプ

湯前中学校(古家慎也校長)のワークキャンプが8月7、8日に特別養護老人ホーム「福寿荘」とあさぎり町の「翠光園」で行われ、15人が介助体験やレクリエーションで利用者と交流を深めました。

取り組みは同校と社会福祉協議会が行うもの。福寿荘のワークキャンプには3年生4人が参加。車いすや視界を狭めるゴーグルなどを使った模擬体験で利用者の体の状態を体感し、実際に入浴や食事など利用者の介助を手伝いました。

二日目には月に一度のお楽しみ会や中学生自らが考えたクイズなどのレクリエーションで交流。利用者に笑顔で道具を渡したり、移動するときには自主的に椅子を運んだりするなど、生徒たちは思いやりをもって行動していました。

初めて参加した土屋乃愛さん(同校3年=浜川)は「介護の仕事の大変さが分かった。思ったように話しかけることがなかなかできなかったが、笑顔で接することができて良かった」と話していました。

7月24日、25日には湯前小学校で同様の取り組みが行われ、高齢者生活福祉センター「湯愛」に5年生5人、福寿荘には6年生4人が参加しました。



笑顔で利用者と交流する生徒



SUPでドイツの若者と交流した海洋クラブ

水上で国際交流 海洋クラブがドイツの若者とスポーツ交流

第45回スポーツ少年団同時交流事業が8月3日から7日に上球磨地域で行われ、B & G海洋クラブの小学生8人がドイツの若者たちとスタンドアップパドルボード(SUP)で交流しました。

事業は両国の少年団の交流で友好を深め、お互いが国際的な能力を高められるようにと日本体育協会日本スポーツ少年団などが主催。ドイツから約125人が日本を訪れ、10人程度に分かれて全国各地でスポーツ交流や文化財見学などのプログラム体験をしました。

上球磨地域にはマインドスポーツ「チェス」のグループに所属する16歳～25歳の男女9人が訪れ、海洋クラブの児童と一緒に市房ダム湖でSUPを体験。海洋クラブの子どもたちは、一緒にボードの上に乗って、ジェスチャーを交えながら笑顔でコミュニケーションをとり、終わったあとも自分たちから話しかけていました。ドイツの若者たちは自国のお菓子をプレゼントし、子どもたちにお礼を伝えていました。



1 おさる画伯からアドバイスを受けてうちわを作る子ども 2 最後まで書ききることの大切さを学んだ 3 自分だけのうちわが完成

おさる画伯とうちわ作り まんが図書館夏休み特別企画

まんが図書館の夏休み特別イベントが7月30日と8月17日に、レールウイング内の展示体験販売施設で行われ、小学生らが、おさる画伯こと町内在住のイラストレーター、大野慎也さん(39=中里2)から絵の描き方を学び、似顔絵入りうちわを作りました。

子どもたちが絵を描くことで、より漫画に親しめるようにと企画。以前同施設で展示を開いたことのある大野さんが講師を務めました。

8月17日には上球磨3町村から親子14人が参加。クレヨンやマジックペンを使い、うちわの表に自分の似顔絵、裏には花火やスイカなど夏を感じるものを自由に描いていました。

参加した迫田和真さん(湯前小学校6年=中里2)は「眼球の色などに注意して似顔絵を描いた。普段はあまり絵をかかないけれど、楽しかった」と話し、大野さんは「とても上手な子もいて、驚かされた。うまい下手ではなく、一つのを完成させることが大事だということが一番に伝えた」と話していました。

同図書館では、7月21日から9月2日まで、漫画を上手に紹介した一人に、図書カードをプレゼント。館内のキッズ用塗り絵のスペースに大人も楽しめる塗り絵を用意するなどの企画も行っています。

近くで見る牛に感動 湯愛学童クラブが子牛品評会を見学

湯前町子牛品評会が8月1日に畜産センターで開かれ、社会福祉協議会が運営する湯愛学童クラブの小学3～5年生24人がその様子を見学しました。

子どもの食育として、畜産農業協同組合湯前分区(野田一久分区長)が社協に呼びかけ、初めて見学が行われました。事前に役場農林振興課の職員が見学するときの注意を児童に説明。続けて、本町の肉牛の頭数や肉質の違い、子牛一頭の価格、牛の年齢などをクイズとして出し、児童たちは鉛筆をもって、答えをノートにメモ。

畜産センターの室内では、牛のエサとなる牧草「イタリアンライグラス」の説明を受けたあと、においをかいだり、触ったりもしていました。その後、牛の近くまで行き、実際に大人が評価しているところを見学。児童は、自分たちで順位も予想しました。

椎葉心美さん(湯前小4年=野中田3)は「今まで遠くで牛を見ることはあったけれど、こんなに近くで見るとは初めて。どうやって順位を決めているかが分かっておもしろかった」と話していました。



牛を間近に見て、品評会の順位を自分たちで予測



職員から聞いたことをメモして学ぶ児童たち